

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-43902

(P2000-43902A)

(43)公開日 平成12年2月15日(2000.2.15)

(51)Int.Cl.⁷

B 6 5 D 33/38

識別記号

F I

B 6 5 D 33/38

テマコード*(参考)

3 E 0 6 4

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 7 頁)

(21)出願番号 特願平10-211370

(22)出願日 平成10年7月27日(1998.7.27)

(71)出願人 000006769

ライオン株式会社

東京都墨田区本所1丁目3番7号

(72)発明者 斎藤 洋平

東京都墨田区本所1丁目3番7号 ライオン株式会社内

(72)発明者 宮前 善隆

東京都墨田区本所1丁目3番7号 ライオン株式会社内

(74)代理人 100101144

弁理士 神田 正義 (外1名)

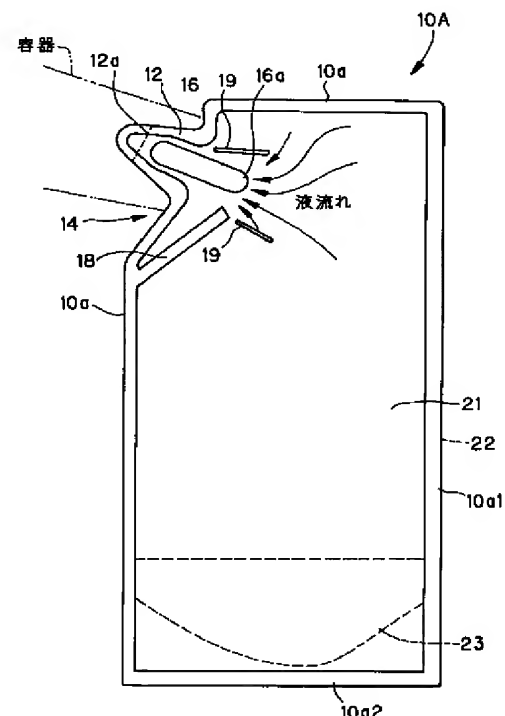
Fターム(参考) 3E064 AB23 BA17 BA26 BA30 BA36
BA55 BB03 BC18 EA23 FA04
HF10 HG02 HS05 HS10

(54)【発明の名称】 液体収容パウチ

(57)【要約】

【課題】 パウチ内に収容したの液体をこぼさずかつ確実に容器に詰め替えることができる液体収容パウチを提供する。

【解決手段】 液体収容パウチ10(10A)の上端角部またはその近傍に液体の注出口部12を設け、かつ、該注出口部12の下方の端縁10aには凹部14を形成して注出口部12が相対的に外側に概略槍先形状あるいは三角山形状に突出するようにし、前記注出口部12のシート材は所定長さをドーム状に形成した部分16を型押し成形などで形成し、注出口部12が使用時に概略筒状を呈するようにし、また、ドーム状形成部分16の内側末端16aの周辺には液流れを該末端16aに誘導する構造として、対向するシート材内面部同士を該末端16a付近で接着した(シール部分18)ものである。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 柔軟性シート材によって袋状に形成されると共に内部に液体を封入して収容するための液体収容パウチであって、

液体収容パウチの上端角部またはその近傍に液体の注出口部を設け、かつ、該注出口部の下方の端縁には凹部を形成して注出口部が相対的に外側に突出するようにし、前記注出口部のシート材は所定長さをドーム状に形成して注出口部が使用時に概略筒状を呈するようにし、ドーム状形成部分の内側末端の周辺には液流れを該末端に誘導する構造を形成したことを特徴とする液体収容パウチである。

【請求項2】 液流れを誘導する構造は、対向するシート材内面部同士を接着したものであることを特徴とする請求項1に記載の液体収容パウチ。

【請求項3】 液流れを誘導する構造は、対向するシート材に内側に向く凹所を形成したものであることを特徴とする請求項1に記載の液体収容パウチ。

【請求項4】 注出口部のドーム状形成部分は、液体収容パウチの底面部に対して該形成部分がほぼ0°～25°の範囲に角度を有するように形成したことを特徴とする請求項1ないし3に記載の液体収容パウチ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、例えば柔軟性シート材の端縁部を接着形成した袋状容器に、衣料用、台所用、浴用等の各種洗剤、シャンプー、リンス、あるいは柔軟剤等の液体または清涼飲料、あるいは液体調味料を収容するパウチであって、当該収容液体を主に比較的硬いボトル等の容器へ詰め替えるための液体収容パウチに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、洗剤等の液体を収容する容器は、貯留する液体の種類・用途等によって、液体衣料用洗剤、台所用洗剤、浴用洗剤等の内溶液および用途に適した容器が製作されている。

【0003】上記の各種容器は製造コストが高くなりがちであると共に、使い捨てにするとユーザー側でかさ張り場所を取るゴミになりやすい。そこで、液体収容パウチに液体を収容して、元の容器に入れて使用する詰め替用の液体製品が販売等されている。この場合、ユーザーは、販売されている、元と容器に収容されていた液体と同じ液体がパウチに収容された液体製品を購入して、元の容器にパウチ内の液体を補充し使用する。

【0004】前記のような液体収容パウチとしては、従来より種々の平袋やスタンディングパウチが提案、実施されており、液体収容パウチの液体をボトル形状の容器に移し替える状態を図8に示す。図8に示すように、液体収容パウチPの切り込み部から切り取り線に沿って切り取って開口させ、開口部を液体導出口eとして容器B

の口元Baに近づけ、そして、前記収容パウチPを傾ける等して導出口eから液体Lを流れ出させて容器B内へと注ぎ込むようになっている。

【0005】上記のように、液体収容パウチに収容した液体Lをボトル等の容器に詰め替えて使用すれば、液体に適した機能、形状を有する容器を繰り返し使用できるため経済的であり、また、液体収容パウチは樹脂を主成分とする柔軟性に富んだ積層構造のシート材からなるので安価かつ軽量に構成することができ、しかも、液体を移し替えた後には、全体を薄いシートと同様に折り畳んでコンパクトにした状態で廃棄することができ、取り扱い性が極めてよい。さらには、液体収容パウチはリサイクルが容易なことから環境保護の点からも好ましく、将来のさらなる普及が期待される。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、前記の液体収容パウチは、柔軟性のあるシート材によって形成されているため、把持した際に変形し易く、液体収容パウチの導出口eとボトル容器の相対位置を一定に保っておくことは極めて困難であり、注入時に収容パウチが変形してその導出口eがボトル容器Bの口元Baから外れる可能性が高く、液体が外部に漏れて容器Bの周辺を汚したり、液体を無駄にしたりする等、この液体の詰め替え作業は面倒で繁雑な作業となっていた。

【0007】本発明は、前記の問題点を解消するためなされたものであって、液体収容パウチ内の液体をこぼさずかつ確実に容器に詰め替えることができる液体収容パウチを提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】本発明は、上記の目的を達成するため、次の構成を有する。請求項1の発明は、柔軟性シート材によって袋状に形成されると共に内部に液体を封入して収容するための液体収容パウチであって、液体収容パウチの上端角部またはその近傍に液体の注出口部を設け、かつ、該注出口部の下方の端縁には凹部を形成して注出口部が相対的に外側に突出するようにし、前記注出口部のシート材は所定長さをドーム状に形成して注出口部が使用時に概略筒状を呈するようにし、ドーム状形成部分の内側末端の周辺には液流れを該末端に誘導する構造を形成したことを特徴とする液体収容パウチである。請求項1の発明によれば、液体収容パウチの上端角部またはその近傍に液体の注出口部を設け、かつ、該注出口部の下方の端縁には凹部を形成して注出口部が相対的に外側に突出するようにし、前記注出口部のシート材は所定長さをドーム状に形成して注出口部が使用時に概略筒状を呈するようにするので、補充対象容器の入り口に注出口部を差し込むと前記端縁の凹部が入り口に引っ掛かり注出口部が入り口に安定して係止し外れにくくなる。したがって、安定して注げ、液こぼれが生じない。また、ドーム状形成部分の末端に向けて液流れ

を誘導する構造を有するので、液を途切れる事なく注出口部に流すことができる。

【0009】請求項2の発明は、液流れを誘導する構造が、対向するシート材内面部同士を接着したものであることを特徴とする請求項1に記載の液体収容パウチである。このように、対向するシート材内面部同士を接着して液流れを誘導する構造とすることにより、液は注出口部の先端付近に不要に回り込むことがなくなり、注出口部の閉鎖が生じない。したがって、液をときらせることなく注ぐことができる。

【0010】請求項3の発明は、液流れを誘導する構造が、対向するシート材に内側に向く凹所を形成したものであることを特徴とする請求項1に記載の液体収容パウチである。このように、対向するシート材に内側に向く凹所を形成して液流れを誘導する構造とすることにより、この凹所で液流れを注出口部のスムーズに誘導でき、注出口先端付近に不要に回り込むことがなくなり、注出口部の閉鎖が生じない。それと共に、ユーザーがこの凹所を指先で摘んで注ぐことができるので、注出時に安定して注出口部を支持しかつ注出口部を補充対象容器の口元に保持することができる。

【0011】請求項4の発明は、注出口部のドーム状形成部分が、液体収容パウチの底面部に対して該形成部分の中心軸がほぼ 0° ～ 25° の範囲に角度を有するように形成したことを特徴とする請求項1ないし3に記載の液体収容パウチである。このように、液体収容パウチの底面部に対して該形成部分の中心軸がほぼ 0° ～ 25° の範囲に角度を有するにすれば、パウチをほぼ水平横向きにして注ぐときに、注出口部はほぼ鉛直下向きになるので液の流れ出し方向に沿いスムーズな液流れが保証され抽出口部が閉塞する恐れが全くない。それと共に、注出口部の向きが補充対象容器の口元にピッタリと引っ掛かることなく入る状態になる。また、注出の終わりの方ではパウチの底部を持ち上げて余す事なく流し出そうとするが、前記のように 25° 程度の範囲まで上向きの角度を付けることにより、この底部を持ち上げたときにも注出口部は鉛直下向きになり、液が流れやすく好ましい。

【0012】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して本発明の実施形態を詳細に説明する。図1は、本発明の実施形態1にかかる液体収容パウチの説明図である。図1に示すように、液体収容パウチ10Aは、一対の柔軟性シート材を対向して重ねほぼ全周の端縁10aを接着することによって内部空間を有するように袋状に形成されると共に内部に液体を封入して収容するためのものである。

【0013】液体収容パウチ10Aでは、その上端角部またはその近傍に液体の注出口部12を設け、かつ、該注出口部12の下方の端縁10aは凹ませて凹部14を形成して注出口部12が相対的に外側に概略槍先形状あ

るいは三角山形状に突出するようにしている。注出口部12上方の端縁10aは、実施形態1ではパウチ10A上端の端縁10aよりもやや低くなっているが、ほぼおなじ高さでもよいものである。注出口部12の先端には、切り取り線12aが印刷あるいは型押しで形成されていて、その切り取り線で注出口部分先端を切り取り注出口を開けることができるようになっている。

【0014】前記注出口部12のシート材には所定長さをドーム状に形成した部分16を型押し成形などで形成し、注出口部12が使用時に概略筒状を呈するようにしている。また、ドーム状形成部分16の内側末端16aの周辺には液流れを該末端16に誘導する構造として、対向するシート材内面部同士を該末端16a付近で接着（シール部分18）したものである。実施形態では、このシール部分18は、前記凹部14下縁付近から前記末端16a付近にわたって直線状に延ばして形成されたものである。そして、ドーム状形成部分16に向けて開き角を小さくした漏斗状に沿うリブ状部19が形成され、このリブ状部19は前記シール部と共同して液流れをスムーズにする。

【0015】前記液体収容パウチ10Aを構成するシート材は、基本的には単一あるいは複数枚のシート材の端縁10aを折曲及び接着することによって形成したものとなっており、シート材としては、柔軟性を有すると共に液体に対して非浸透性を有するシート材、例えば、ポリエチレン、ポリプロピレン、ナイロン、またはポリエチレンテレフタレートなどのプラスチックのフィルムと、アルミニウムなどの金属のフィルムをラミネートしたものをを用いており、いずれも安価かつ容易に製造し得るものとなっている。

【0016】そして、図1に示すように、液体収容パウチ10Aは、側面部を形成する左右対称の2枚のシート材（以下、側面シート材と称す）21、22と底部を形成する1枚のシート材（以下、底面シート材と称す）23とを接着したものとなっている。

【0017】すなわち、前記2枚の側面シート材21、22は、矩形形状をなすシート材の一角部に鋭角に屈曲して突出する突起状注出口部12を形成したのものとなっており、両側面シート材21、22は、その端縁部の中の側辺部及び上辺部を所定の幅を有して端縁シール部10a1、10a1によって互いに接着したものとなっている。また、前記両側面シート材21、22の下辺部には、楕円形状をなす底面シート材23の周縁部がシール部10a2によって接着されている。このため、この液体収容パウチ10は、底面シート材23を広げることにより平面上に立設させ得るいわゆるスタンディングパウチとなっており、内部には洗剤などの液が貯留するものである。

【0018】なお、前記ドーム状形成部分16のドームの幅は約8.0mmで長さ約30.0mmとすることが

できる。

【0019】実施形態1の液体収容パウチ10Aの上端角部またはその近傍に液体の注出口部12を設け、かつ、該注出口部12の下方の端縁には凹部14を形成して注出口部12が相対的に外側に突出するようにし、前記注出口部12のシート材は所定長さをドーム状に形成して注出口部12が使用時に概略筒状を呈するようにするので、補充対象容器の入り口に注出口部12を差し込むと前記端縁の凹部14が入り口に引っ掛かり注出口部が入り口に安定して係止し外れにくくなる。したがって、安定して注げ、液こぼれが生じない。また、ドーム状形成部分16の末端に向けて液流れを誘導する構造を有するので、液を途切れる事なく注出口部に流すことができる。

【0020】また、対向するシート材内面部同士を接着したシール部分18で液流れを誘導する構造とすることにより、液は注出口部12の先端付近に不要に回り込むことがなくなり、注出口部12の閉鎖が生じない。したがって、液をとぎらせることなく注ぐことができる。

【0021】また、液体収容パウチ10Aの底面部に対して該ドーム形成部分16の中心軸がほぼ 0° ～ 25° の範囲に横向きから上向きに傾くようにすれば、パウチをほぼ水平横向きにして注ぐときに、注出口部はほぼ鉛直下向きになるので液の流れ出し方向に沿いスムーズな液流れが保証され、かつ、注出口部の向きが補充対象容器の口元にピッタリと引っ掛かることなく入る状態になる。また、注出の終わりの方ではパウチの底部を持ち上げて余す事なく流し出そうとするが、前記のように 25° 程度の範囲まで上向きの角度を付けることにより、この底部を持ち上げたときにも注出口部は鉛直下向きになり、好ましい。

【0022】本発明は実施形態1に限定されることなく、図2～図8に示し、かつ、以下に説明する実施形態2～7のように、種々に変形実施ができる。これらの実施形態2～7は前記実施形態1とほぼ同様の構成・作用・効果を有しており、同様部分には同一符号を付する等して説明を省略し、異なる箇所および部分を以下に説明する。

【0023】実施形態2の液体収容パウチ10Bは、実施形態1のパウチ10Aと異なる所は、シール部分28は、凹部14下端からドーム状部分16に近傍にわたって、凹部14に沿いかつ漸次広がりつつ概略三角形形状を呈して接着されており、内側縁が鉛直に対して β° 傾いている点である。また、注出口部12が水平面に対して角度 α で傾いている。

【0024】また、図3は、実施形態3にかかる液体収容パウチ10Cであり、実施形態2と異なる所は、注出口部12が水平面にほぼ沿っている点である。

【0025】図4は、実施形態4にかかる液体収容パウチ10Dは、液流れを誘導する構造としてシールではな

く、対向するシート材21、22に内側に向く凹所26を形成したものである。このように、対向するシート材21、22に内側に向く凹所26を形成することにより、ユーザはこの凹所26を摘まめばシート材同士21、22がくっついて液流れをせき止めて液流れを注出口部12に誘導する構造となる。この構造とすることにより、この凹所26で液流れを注出口部12に向けてスムーズに誘導でき、注出口部12先端付近に不要に回り込むことがなくなり、注出口部12の閉鎖が生じない。それと共に、ユーザがこの凹所26を指先で摘まんで注ぐことができるので、注出時に安定して注出口部12を支持しかつ注出口部12を補充対象容器の口元に保持することができる。なお、この凹所26はシール部としてもよい。

【0026】前記実施形態4の液体収容パウチ10Dでは注出口部12とそれに形成したドーム状部分16は、ほぼ水平に沿っているが、図5の実施形態5の液体収容パウチ10Ekのように、図2の実施形態2と同様に注出口部12が水平面に対して角度 α で傾けてもよい。

【0027】また、実施形態5の液体収容パウチ10Eの注出口部12は、角度を持って傾いているが、その上端部がパウチ上端部よりも下方に位置している。しかしながら、注出口部はこれに限定されず、図6の実施形態6の液体収容パウチ10Fのように、注出口部12をパウチ上端位置と同位置にまで延びて、横方に曲がる部分12Fを形成した構造も取り得る。

【0028】さらには、図7の実施形態7の液体収容パウチ10Gのように、前記実施形態4と同様に注出口部12が水平あるいは角度を持って延びるが、端縁10aに凹凸部10Gを設けて、ユーザが持ったときに滑りにくくする構造も取り得る。

【0029】

【発明の効果】以上説明した通り、請求項1の発明によれば、補充対象容器の入り口に注出口部を差し込むと前記端縁の凹部が入り口に引っ掛かり注出口部が入り口に安定して係止し外れにくくなる。したがって、安定して注げ、液こぼれが生じない。また、ドーム状形成部分の末端に向けて液流れを誘導する構造を有するので、液を途切れる事なく注出口部に流すことができる。

【0030】請求項2の発明によれば、対向するシート材内面部同士を接着して液流れを誘導する構造とすることにより、液は注出口部の先端付近に不要に回り込むことがなくなり、注出口部の閉鎖が生じない。したがって、液をとぎらせることなく注ぐことができる。

【0031】請求項3の発明によれば、対向するシート材に内側に向く凹所を形成して液流れを誘導する構造とすることにより、この凹所で液流れを注出口部のスムーズに誘導でき、注出口先端付近に不要に回り込むことがなくなり、注出口部の閉鎖が生じない。それと共に、ユーザがこの凹所を指先で摘まんで注ぐことができるの

7

で、注出時に安定して注出口部を支持しかつ注出口部を補充対象容器の口元に保持することができる。

【0032】請求項4の発明によれば、液体収容パウチの底面部に対して該形成部分の中心軸がほぼ $0^{\circ} \sim 25^{\circ}$ の範囲に上向きに傾くようにすれば、パウチをほぼ水平横向きにして注ぐときに、注出口部はほぼ鉛直下向きになるので液の流れ出し方向に沿いスムーズな液流れが保証され閉塞する恐れが全くない。それと共に、注出口部の向きが補充対象容器の口元にピッタリと引っ掛かることなく入る状態になる。また、注出の終わりの方ではパウチの底部を持ち上げて余す事なく流し出そうとするが、前記のように 25° 程度の範囲まで上向きの角度を付けることにより、この底部を持ち上げたときにも注出口部は鉛直下向きになり、液が流れやすく好ましい。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態1に係る液体収容パウチの説明図である。

【図2】実施形態2に係る液体収容パウチの説明図である。

8

【図3】実施形態3に係る液体収容パウチの説明図である。

【図4】実施形態4に係る液体収容パウチの説明図である。

【図5】実施形態5に係る液体収容パウチの説明図である。

【図6】実施形態6に係る液体収容パウチの説明図である。

【図7】実施形態7に係る液体収容パウチの説明図である。

【図8】従来の液体収容パウチの説明図である。

【符号の説明】

10A～10G 液体収容パウチ（実施形態1～7）

12 注出口部

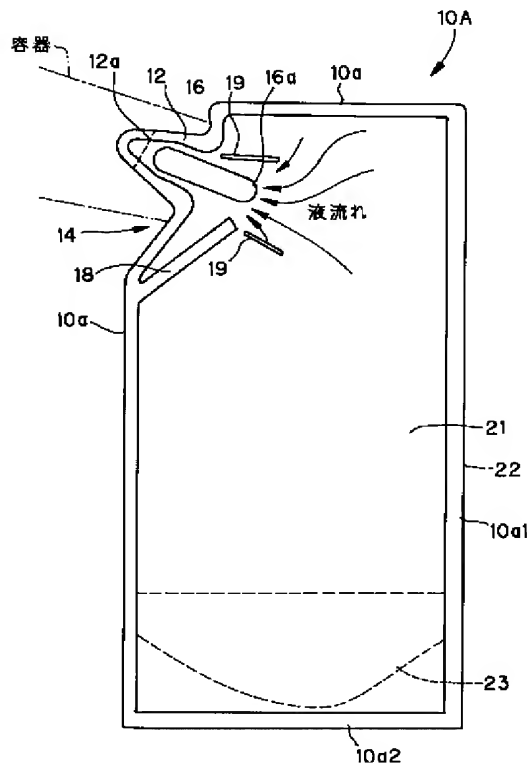
14 凹部

16 ドーム状形成部分

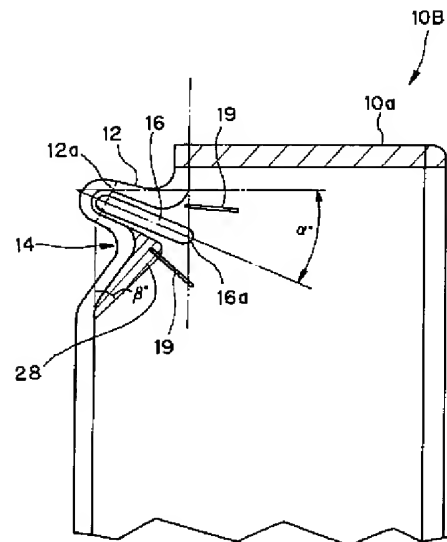
16a ドーム状形成部分の末端

18 シール部分

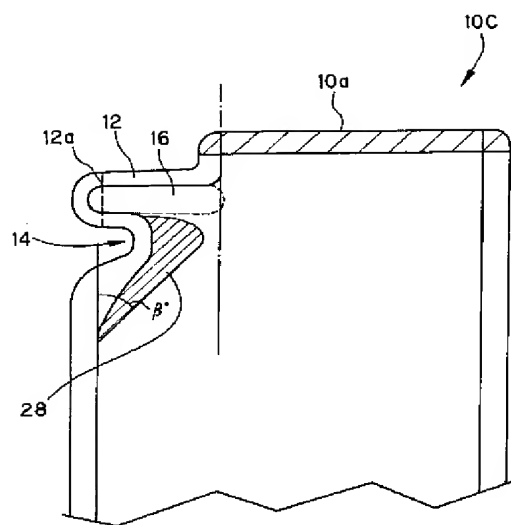
【図1】



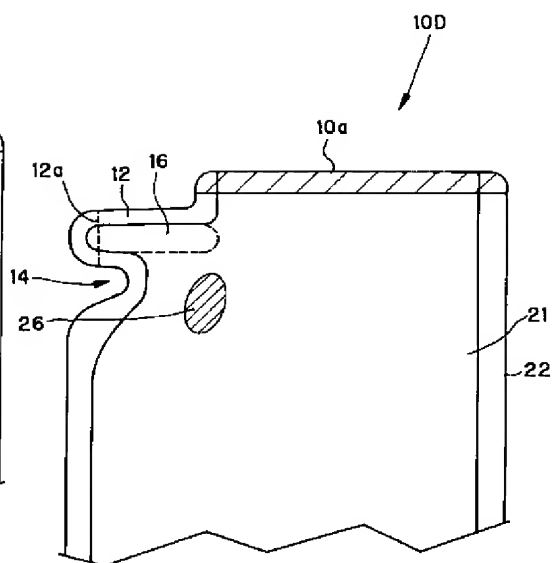
【図2】



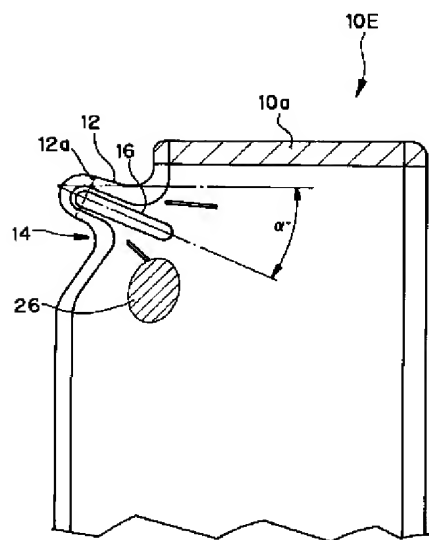
【図3】



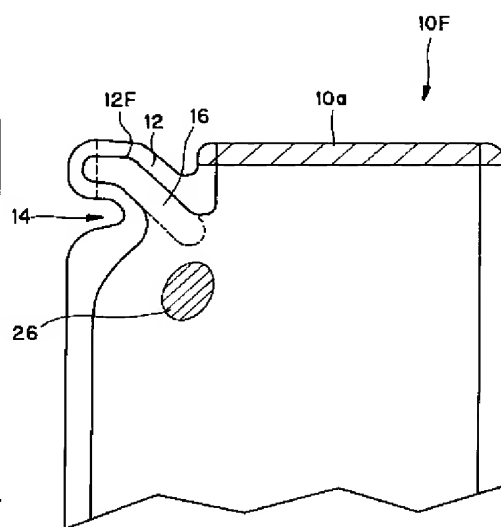
【図4】



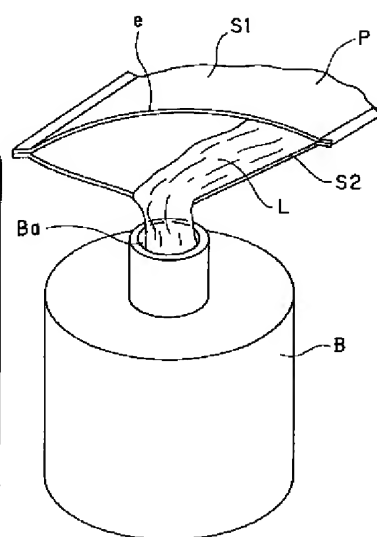
【図5】



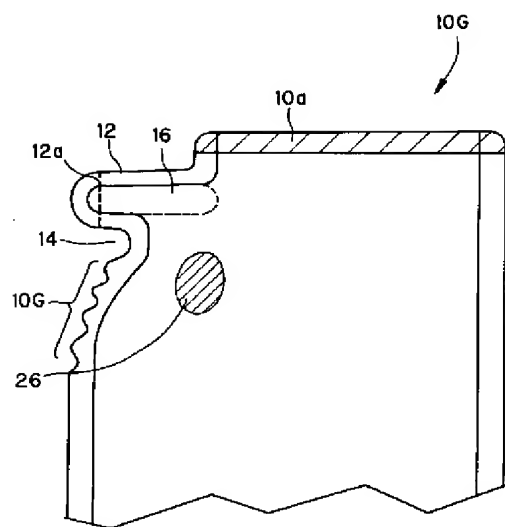
【図6】



【図8】



【図7】



PAT-NO: JP02000043902A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2000043902 A
TITLE: LIQUID STORAGE POUCH
PUBN-DATE: February 15, 2000

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
SAITO, YOHEI	N/A
MIYAMAE, YOSHITAKA	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
LION CORP	N/A

APPL-NO: JP10211370
APPL-DATE: July 27, 1998

INT-CL (IPC): B65D033/38

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a liquid storage pouch capable of refilling securely a liquid stored in a pouch into a container without spilling.

SOLUTION: A liquid pouring section 12 is provided on an upper end corner of a liquid storage pouch 10 (10A) on its vicinity, and a recess 14 is formed on an end edge 10a below the

pouring section 12 so that the pouring section 12 is protruded to the outside relatively almost into the spearhead shape or the triangle crest shape. A dome-shape forming section 16 of the given length is formed on a sheet material for the pouring section 12 by embossing or the like so that the pouring section 12 is almost of cylindrical shape at the time of use. Also sheet material inner face sections facing each other are bonded in the vicinity of a terminal 16a to form a structure of guiding the liquid flows to the terminal 16a on the periphery of the inner terminal 16a of the dome-shape forming section 16 (a seal section 18).

COPYRIGHT: (C)2000,JPO